

音楽感情に関する一研究

— 個人間差異の影響について —

古矢千雪*

A Study of Musical Feelings

— The Effect of the Individual Differences —

Chiyuki FURUYA

音楽心理学は音楽的行動を対象とした研究であり、行動を生起させる刺激としての音楽の条件と、行動する個体の条件を分析し、これらの条件が変化することにより、行動にどのような影響が現われるかについて研究するのが目的である。

鑑賞者の感情反応は、音楽的行動の1種であり、個体と音楽のもつ条件が変化することにより、音楽感情（音楽を聞いている際に個体に生じる感情的反応）にどのような影響が現われるかについて研究するのが、音楽感情を対象とした場合の目的である。音楽の条件としては、旋律・和音・リズム・音程・調子等の構成要素（Hevner 1936, 1937, Henkin 1957, etc.）、演奏法、演奏楽器等があげられる。また個体の条件としては、性格（Sopchak 1955）、年齢（Zimny & Weidenfeller 1962）、民族（Grundluch 1935）、態度（France's 1956）および精神的・肉体的状態等があげられる。

個体的条件の中で、個人内の精神状態を操作し、音楽感情の変化を検討することは筆者（1968）も試みてみたが、実験条件を統制することが困難であり、また表面上統制したとしても、実際どの程度までコントロールできたかを知ることも難かしいことである。

本研究では個人間の差異をとりあげ、

* 心理学研究室

1. 音楽専門学生と一般学生
 2. 曲を認知する者とししない者
 3. 曲に対する好・嫌感情の影響
- の3つの観点から、音楽感情にどのような差異が現われるかについて検討を試みる。

方 法

1) 刺激材料

クラシックのピアノ曲より比較的ポピュラーなものを10曲選択し、曲間の意味距離を測定（古矢、1967、第24回中四国心理学会論集）、異なった音楽感情を生起させるものを5曲本研究の刺激として使用した。呈示順に並べると次のようになる。

- ④春の歌（メンデルスゾーン）
- ⑤ゴリーウォークのケーキ・ウォーク（ドビシー）
- ⑥軍隊ポロネーズ（ショパン）
- ⑦月光ソナタ第3楽章（ベートーベン）
- ⑧ハンガリア狂詩曲第2番（リスト）

それぞれ曲の始まりから30小節前後（ほぼ1分間）までの、曲の感じが極端に変化しない部分を2回ずつ収録した。

2) 評定尺度

筆者の行った以前の研究（1967）で分析した尺度の中から、快の感情群（第1因子の負荷量の高いもの）より8尺度、興奮・緊張の感情群（第2因子の負荷量の高いもの）より5尺度、

その他 2 尺度の計 15 尺度を本研究で使用する
評定尺度とした。7 段階評定である。

- | | |
|------------|------------|
| ①嬉しくなる。 | －悲しくなる |
| ②安心する | －不安になる |
| ③愉快になる | －不愉快になる |
| ④体が軽くなる | －体が重くなる |
| ⑤気が晴れる | －ゆううつになる |
| ⑥暖かくなる | －寒くなる |
| ⑦疲れがとれてくる | －疲れてくる |
| ⑧希望がわいてくる | －絶望的になる |
| ⑨興奮してくる | －落ち着いてくる |
| ⑩緊張する | －弛緩する |
| ⑪いらいらする | －ゆったりする |
| ⑫騒ぎたくなる | －静かにしていきたい |
| ⑬目がさめる | －ねむくなる |
| ⑭力強くなる | －弱々しくなる |
| ⑮昔のことを思い出す | －将来のことを考える |

3) 質問項目

あなたはこの曲が好きですか？

好き－どちらでもない－嫌い

あなたはこの曲を知っていますか？

知っている－聞いたことがある－知らない

4) 被験者

音楽大学生 60 名, 家政系短大生 60 名,

計 120 名

5) 手続き

1 曲につき 2 回ずつ呈示されていくので、被験者はまず初め聴取するのみである。次に 2 回目の音楽が流れてくると同時に、「私はこの曲を聞くと・・・ような気持ち(感じ)になる」という観点から 15 尺度それぞれについて評定し、その後、2 つの質問項目について答えていく。刺激音楽は適当に間隔をとりながら④～⑮順次呈示する。評定尺度①～⑮はランダムに並べかえてある。

あなたはこの曲を知っていますか？の質問に

対し、聞いたことがあるという回答は、知らない方に入れて分析した。

参考として評定尺度 15 項目を選択した元の尺度群(30 尺度)の因子分析の結果を表 1 に掲げる。

結果と考察

I 音大生と短大生との比較

1) 表 2 は音大生・短大生別の各尺度に対する評定平均値と標準偏差である。両者の平均値の差の検定を行った結果、 $P < .05$ の有意差のある尺度には * 印をつけた。また両者の分散の差の検定を行った結果、 $P < .05$ の有意差のある尺度には ○ 印をつけた。

2) 音大生は短大生に比べ、感情反応が画一的であろうと予想したが、両者の評定値の分散を比較した場合、期待した以上の結果は見られなかった。しかし、かなりの尺度の上に有意差、すなわち音大生の方が分散が小さいという傾向がみられ、やはり曲に対する親しみや認識がある程度は感情反応を画一化するのではないかと思われる。

3) 両者の、評定平均値に有意差のある感情尺度についてみると、快の感情群に比べて、興奮・緊張の感情群に有意差のあるものが多くみられた。

4) 評定平均値に有意差のある尺度では、一部例外もあるが、大部分では、音大生の場合が両極端に近く評定している。

5) これらのことから、音大生の方が音楽を聞いた際、興奮性の感情がより強く生じる場合が多いといえよう。

6) 刺激音楽 5 曲間相互の意味距離を示したのが表 3 である。音大生と短大生はほぼ類似した結果を示している。ただ A (春の歌) と D (月光ソナタ) の間で、短大生に比べて音大生の方が大きな距離を感じている。

Table 1. Factor Loadings of 30 Scales by
Principal-Components Factor Analysis.

(1967)

scale \ factor	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	h^2	factor I+II h^2
明るくなる—暗くなる	.885	-.052	-.022	.069	-.049	-.013	.149	.010	-.001	.030	.8169	.7852
気が晴れる—ゆううつになる	.881	-.029	.030	.012	.062	.148	.004	-.021	.027	-.004	.8050	.7770
楽しくなる—苦しくなる	.873	-.016	.146	-.038	-.025	-.072	-.082	.054	.046	.025	.8033	.7624
希望がわく—絶望的になる	.843	-.015	-.183	.122	.006	-.090	.113	.058	-.039	.030	.7859	.7109
体が浮く—体が沈む	.838	.154	.229	.051	.000	.048	.075	-.044	.133	-.132	.8260	.7260
快活になる—物うくなる	.833	.313	.047	.098	.001	-.093	-.024	.001	.070	-.073	.8231	.7919
体が軽くなる—体が重くなる	.825	.045	.230	.134	-.073	.223	-.052	-.023	.046	.004	.8139	.6827
解放感—圧迫感	.822	-.186	.052	-.020	-.044	-.125	.039	.031	.205	.015	.7757	.7103
愉快になる—不愉快になる	.797	.028	.009	.115	.044	.101	-.378	.075	-.049	.120	.8267	.6360
生々する—しょんぼりする	.770	.392	-.052	-.049	.112	.102	.072	-.169	.024	-.111	.8213	.7466
うれしくなる—悲しくなる	.767	.280	.231	-.146	.053	.127	-.179	-.069	-.121	-.008	.8115	.6667
気持ちよくなる—気持ち悪くなる	.765	-.361	-.038	.070	.019	.223	-.133	.029	-.129	.058	.8105	.7155
スッキリする—頭が痛くなる	.762	-.200	-.221	.110	-.052	.054	.061	.200	.088	.154	.7624	.6206
暖かくなる—寒くなる	.712	-.103	.212	-.140	.126	-.257	.229	-.188	-.315	-.075	.8567	.5176
疲れがとれる—疲れる	.683	-.436	-.204	-.027	.011	.147	.198	.044	.125	.171	.8067	.6566
安心する—不安になる	.682	-.403	.065	-.149	.124	.093	-.190	-.009	-.144	-.224	.7851	.6275
愛情がわく—憎悪がわく	.634	-.477	-.194	.080	.005	.056	.208	-.018	-.233	.093	.7832	.6295
勇気がわく—おこ病になる	.645	.342	-.430	-.020	.060	-.066	.133	-.152	-.068	.020	.7721	.5330
力強くなる—弱々しくなる	.295	.578	-.492	-.202	.254	-.050	-.240	-.221	.082	-.003	.8842	.4211
追いかける—追いかげられる	.605	.014	-.100	.317	-.389	-.507	-.193	.005	-.081	-.073	.9342	.3662
満足感を与える—何かを求める	.551	-.250	.130	-.513	.257	-.318	-.034	.331	.066	.065	.9326	.3661
昔のことを思ひ出す—将来のことを考える	-.231	-.406	.088	.554	.646	-.163	-.066	-.024	.088	.022	.9899	.2182
目がさめる—おぼくなる	.415	.657	-.091	.119	.042	.109	.137	.285	.106	-.356	.8779	.6039
緊張する—弛緩する	-.209	.732	-.204	.047	.129	.040	-.054	.330	-.307	.111	.8600	.5795
夢心地になる—現実で直面した	-.306	-.746	.262	.055	.026	.007	.057	-.017	-.071	.169	.7597	.6502
活発な活動したい—静かに思考したい	.419	.783	.070	-.040	-.002	-.073	.026	-.007	.104	.107	.8235	.7887
追いつてられる—のんびりする	-.163	.794	.184	.140	.038	.067	.068	.094	.195	-.076	.7737	.6570
興奮する—おちつく	.202	.847	.111	.053	-.026	-.003	-.044	-.079	.028	.207	.8258	.7582
騒ぎたくなる—静かにしたい	.230	.849	.168	.001	.008	-.049	.026	-.093	.087	.190	.8574	.7737
いらいらする—ゆったりする	-.177	.851	.212	.038	.059	-.037	.164	.028	-.002	.120	.8489	.7555
%	41.58	22.54	3.69	3.04	2.64	2.34	2.01	1.75	1.67	1.54	82.70	64.12

Table 2. Mean Scores and Standard Deviations of Each Scale

MUSIC A		MUSIC B		MUSIC C	
univ.	college	univ.	college	univ.	college
1. 3.6(1.1)	3.9(1.0)	1. 3.2(1.1)	3.0(1.1)	1. 2.8(0.8)	3.1(0.9)
2. 3.1(1.3)	3.3(1.4)	2. 4.4(0.8)	4.2(1.1)○	2. 3.7(0.9)	3.5(1.0)
3. 3.4(1.1)	3.8(0.9)*	3. 2.7(1.3)	3.2(1.5)	3. 2.9(0.9)	3.1(1.1)○
4. 3.1(1.2)	3.4(1.4)	4. 3.1(1.4)	3.3(1.6)	4. 3.0(1.3)	3.0(1.1)
5. 3.5(1.0)	3.8(1.4)○	5. 3.3(1.2)	3.5(1.4)	5. 2.8(1.1)	2.9(1.1)
6. 3.3(2.0)	3.6(1.1)	6. 3.7(0.8)	3.5(1.1)○	6. 3.4(0.8)	3.3(0.8)
7. 3.0(1.1)	3.3(1.2)	7. 4.1(1.0)	4.0(1.6)○	7. 3.6(1.0)	3.6(1.2)
8. 3.4(1.0)	3.7(1.1)	8. 3.5(1.2)	3.5(1.4)	8. 2.8(1.0)	3.2(1.1)*
9. 5.2(1.0)	5.6(1.1)*	9. 2.8(1.1)	2.8(1.1)	9. 2.8(0.9)	2.8(0.9)
10. 5.3(1.0)	4.5(1.2)*	10. 3.3(1.1)	3.9(1.5)○*	10. 3.3(1.2)	3.7(1.2)
11. 5.7(0.9)	5.4(1.5)○	11. 3.2(0.8)	3.1(1.3)○	11. 3.7(1.1)	3.5(1.6)
12. 5.9(1.2)	5.8(1.3)	12. 2.9(0.9)	2.8(1.2)○	12. 3.1(1.1)	2.9(0.9)
13. 4.6(1.0)	4.9(1.2)	13. 2.4(0.9)	2.4(1.4)○	13. 2.4(0.9)	3.3(1.5)○*
14. 4.7(0.8)	5.1(1.0)	14. 2.8(0.9)	2.3(1.1)*	14. 2.3(0.9)	2.5(0.8)
15. 3.3(1.4)	3.6(1.4)	15. 4.0(0.7)	4.4(1.0)*	15. 4.4(0.8)	4.8(1.1)○

MUSIC D		MUSIC E	
univ.	college	univ.	college
1. 3.6(1.3)	4.0(0.9)○	1. 5.0(0.9)	5.1(1.0)
2. 4.6(1.3)	4.7(0.9)○	2. 5.2(0.8)	4.9(1.2)○
3. 3.6(0.9)	3.7(1.3)	3. 4.4(0.9)	5.1(1.1)*
4. 3.5(1.2)	3.5(1.3)	4. 5.2(1.1)	5.3(1.1)
5. 3.5(1.2)	3.6(1.1)	5. 4.9(0.9)	5.0(1.4)○
6. 3.9(1.2)	3.5(1.0)	6. 4.6(1.0)	4.4(1.2)
7. 4.0(1.3)	4.1(1.1)	7. 4.5(0.9)	4.7(1.2)
8. 3.1(1.3)	3.5(1.1)	8. 4.7(1.2)	4.9(1.3)
9. 1.8(0.7)	2.6(1.1)○*	9. 3.6(1.6)	4.1(1.4)*
10. 2.6(1.0)	3.5(1.3)○*	10. 3.1(1.1)	3.8(1.1)*
11. 3.0(1.0)	2.9(1.2)	11. 4.8(1.1)	4.4(1.4)
12. 3.1(1.2)	3.4(1.3)	12. 5.5(1.1)	4.9(1.3)*
13. 2.2(1.3)	2.7(1.0)○*	13. 4.9(1.2)	4.4(1.1)*
14. 2.5(1.0)	3.1(1.0)*	14. 2.7(1.1)	3.6(1.6)○*
15. 4.3(0.9)	4.1(1.1)	15. 3.4(1.2)	3.6(1.3)

* $P < .05$ (mean)

○ $P < .05$ (S. D.)

7) 5曲を、生じさせる音楽感情の類似性から分類すると、A(春の歌)ーB(ゴリ・ウォークのケーキ・ウォーク), C(軍隊ポロネーズ), D(月光ソナタ)ーE(ハンガリア狂詩曲)の大きく3つのグループに分けられる。この結果は以前の研究(1967)の際と同様である。

Table 3. D-matrix(15 scales, N=60)

	MUSIC	A	B	C	D	E
univ. of music	A	0.				
	B	6.12	0.			
	C	5.96	1.54	0.		
	D	7.04	1.79	2.28	0.	
	E	5.69	5.36	5.92	5.21	0.

	MUSIC	A	B	C	D	E
junior college	A	0.				
	B	6.31	0.			
	C	5.85	1.59	0.		
	D	5.83	1.76	2.44	0.	
	E	4.68	5.63	6.00	4.70	0.

8) 今回使用した感情尺度は、すでに述べたごとく、以前因子分析を行い、快の因子、興奮ー緊張の因子、力強さの因子の各負荷量の高いものからそれぞれ選択したものである。その因子別に評定値を平均して、5曲についての感情内容の違いを三次元的に表わしたのが、図1である。この際の快の感情群としては、尺度番号2. 6. 7を除く5尺度とする。

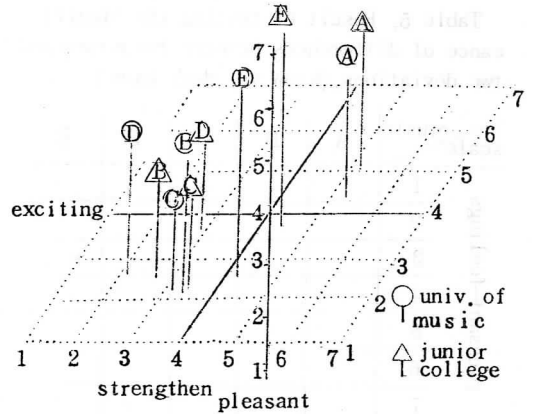


Fig. 1. Three dimensional plot in each factor. A~E are music numbers.

II 曲を知っている者と知らない者との比較

1) 表4より、音大生は使用した曲に対して認知があり、また短大生は一応認知がないものと認められる。

Table 4. Numbers of know-don't know group

	MUSIC	A	B	C	D	E
univ. of music	know	56 (93.3)	37 (61.7)	42 (70.0)	49 (81.7)	35 (58.3)
	don't know	4 (6.7)	23 (38.3)	18 (30.0)	11 (18.3)	25 (41.7)
junior college	know	18 (30.0)	6 (10.0)	3 (5.0)	2 (3.3)	6 (10.0)
	don't know	42 (70.0)	54 (90.0)	57 (95.0)	58 (96.7)	54 (90.0)
χ^2 -test		P<.01	P<.01	P<.01	P<.01	P<.01

2) 音大生、短大生の別をなくし、曲に対する認知のあるなしでグループ分けしなおし、その上で各尺度に対する評定平均値の両者の差の有意性を検討した。両者の分散の差の検討も行った。その結果が表5である。平均値に有意差(P<.05)のあるものには*印、分散に有意差(P<.05)のあるものには○印をつけた。表2と比較してみればわかるが、ほぼ同様の結果が得られた。

Table 5. Result of testing the significance of differences between two means and two deviations, (know vs. don't know)

music scale	A	B	C	D	E	
pleasant-feelings	1		*			
	2					
	3				*	
	4					
	5					
	6					
	7					
exciting-feelings tense	8		*	*	○	
	9		*	*○	○	
	10	*		*○	*	
	11	*				
	12					
	13			*○	*	*
	14			*	*	*○
	15					

* P<.05(mean) ○ P<.05(deviation)

3) 曲を知っている者と知らない者との間の音楽感情の相違を明らかにするため、因子別にそれぞれ評定値を平均し、二次元的に表わしたのが図2である。この際も以前(I-8)と同様、快感情群は5尺度である。

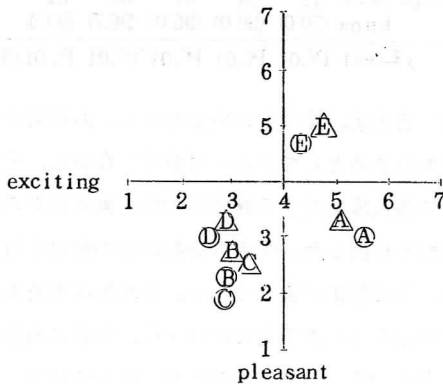


Fig. 2. Two dimensional plot in each factor. A~E are music numbers.

○ know-group
△ don't know-group

4) 以上のことから、Iの場合と同じく、曲を知っている者の方が興奮-緊張の感情群ではより両極に近く反応するということがいえる。また、一部であるが快の感情群では、より快的になるという反応を示している。

Ⅲ 曲に対する好嫌感の別による音楽感情の比較

1) 各曲に対する好-? -嫌別の人数の割合は次の表6に示すとおりである。

Table 6. Numbers of like-dislike group

MUSIC	A	B	C	D	E	
univ. of music	like	48 (80.0)	35 (58.3)	37 (61.7)	44 (73.3)	42 (90.0)
	? (dislike)	7 (11.7)	13 (21.7)	16 (26.7)	9 (15.0)	7 (11.7)
	dislike	5 (8.3)	12 (20.0)	7 (11.7)	7 (11.7)	11 (18.3)
junior college	like	31 (51.7)	14 (23.3)	24 (40.0)	28 (46.7)	15 (25.0)
	? (dislike)	15 (25.0)	19 (31.7)	21 (35.0)	17 (28.3)	15 (25.0)
	dislike	14 (23.3)	27 (45.0)	15 (25.0)	15 (25.0)	30 (50.0)

* C.R.(5%) (%)

2) 音大生は全体的にみて曲に対し好意をもつ傾向がみられる。やはり日常親しんでいるであろう。短大生は好き←→嫌いに分散している。

3) 曲に対して好感をもつ者と嫌感をもつ者の2グループ間で、各尺度に対する評定平均値の有意差の検討を行った結果は表7のとおりであるが、有意差のある尺度が圧倒的に快の感情群にあることから、曲に対する好嫌感と、曲を聞いた時快よくなるか否かとは密接な関係があるといえる。

4) 因子別にそれぞれの曲について評定値を平均し、二次元的に表わしたのが図3である。好嫌感の違いが感情面にいかに現われているかが明らかであろう。また、各曲の好嫌別の、各尺度に対する評定平均値を図示したのが、図4

である。ただし scale 13 までである。

5) 以上のことから、快の感情群についてみると、曲に好感をもつ者は、全評定者の平均に比べて、より快的な感情を生じ、反対に嫌感をもつ者はより強く不快な感情を生じている。このことは、全般的に不快な感情を生じさせる Music E においてもいえる。

Table 7. Result of testing the significance of differences between two means. (like vs. dislike)

scale	music					
	A	B	C	D	E	
pleasant-feelings	1	*	*	*		
	2	*	*			
	3	*	*	*	*	*
	4	*	*		*	
	5	*	*	*	*	*
	6					
	7	*	*	*		
	8	*	*	*	*	*
exciting-feelings tense	9					
	10	*				*
	11	*		*		*
	12					
	13	*		*		*
	14	*		*		*
	15					

* $P < .05$

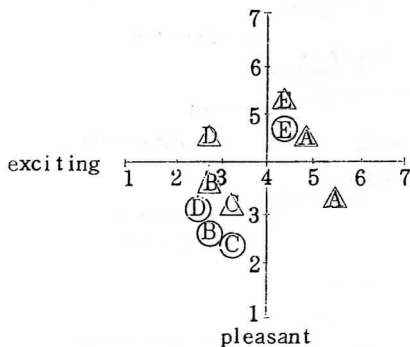


Fig. 3. Two dimensional plot in each factor. A~E are music numbers.

- like-group
- △ dislike-group

6) 興奮-緊張の感情群については、先の感情群にみられるような一貫性のある傾向はみられないが、曲に対して好感を示している者は、よりおちつく、ゆったりする、目がさめるといった傾向を示した。また嫌感を示す者は、よりいらいらするといった傾向を示した。11番目の尺度がそれである。

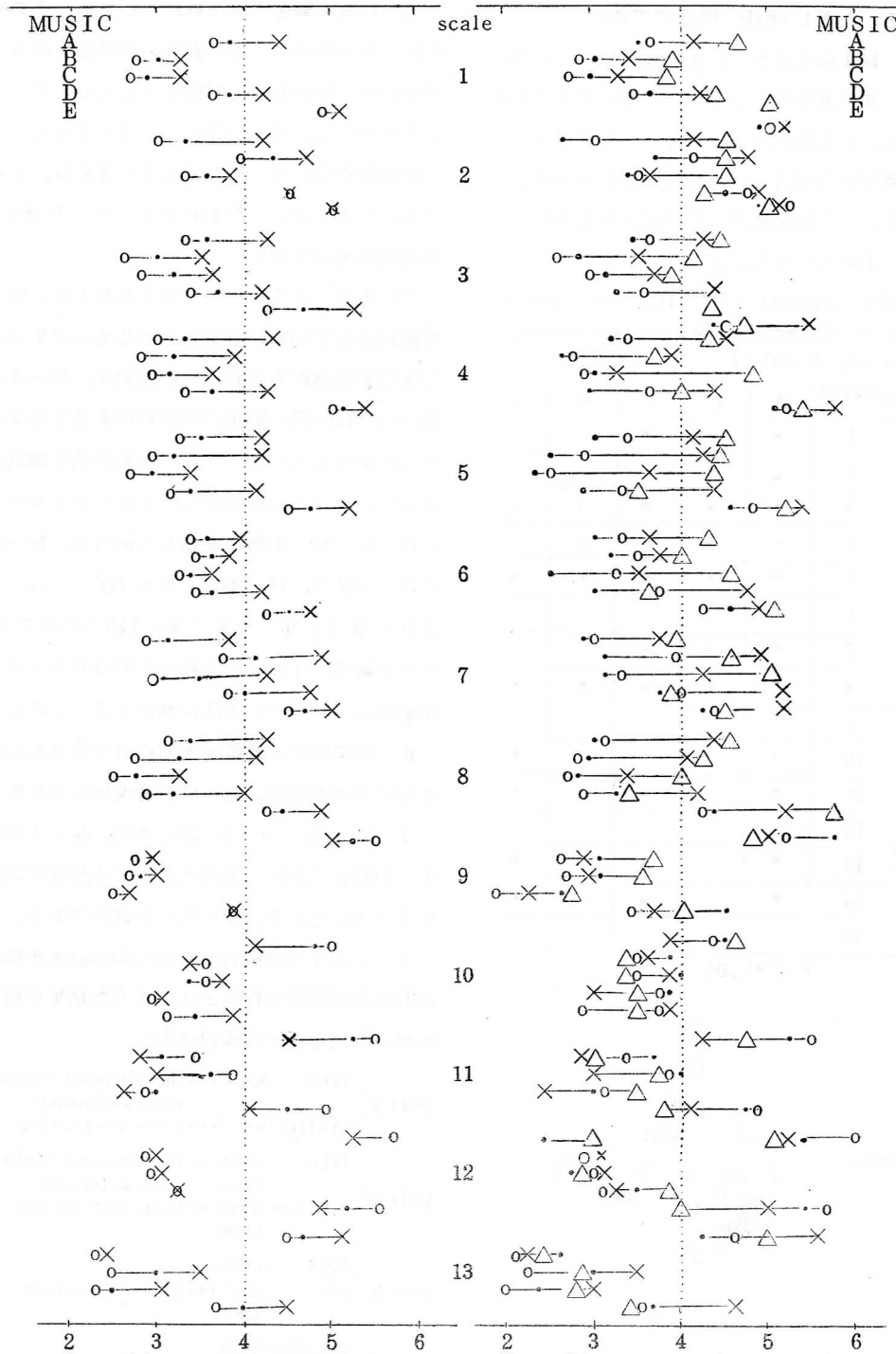
7) 表5と表7を比較するとわかるが、好-嫌別の評定平均値の有意差のあるものは集中して快の感情群にみられ、その反対に、知-不知別の場合は興奮-緊張の感情群に有意差のあるものが集中している。これらは対照的な傾向を示している。このことから、これら2グループ(好-嫌, 知-不知)を相互に組合せ、好-不知(N=193), 好-不知(N=126), 嫌-不知(N=26), 嫌-不知(N=115)の4グループを編成、4グループ相互の組合せによる音楽感情の差異について次に検討することにした。

IV 曲に対する好嫌感と曲に対する認知の有無を組合せた場合、相互間の音楽感情の比較。

1) 好-知, 嫌-知, 好-不知, 嫌-不知の4つの組合せ別に、各尺度に対する評定平均値をもとめ、それを図示したのが図5である。

2) この4つの組合せ相互の間の評定平均値の有意差の検討を行うと次のような結果が得られた。各尺度ごとの検討は省く。

- pair 1 { like -know...the pleasant feelings more intensive
dislike -know...more irritating
- pair 2 { like -don't...the pleasant feelings know more intensive
dislike -don't...more irritating know
- pair 3 { like -know
like -don't...partly pleasant know
- pair 4 { dislike -know
dislike -don't...nothing know



○ like
 • average of all
 × dislike

○ like-don't know
 △ dislike-don't know
 • know
 × know

pair 5 $\left\{ \begin{array}{l} \text{like} \text{---} \text{know} \dots \text{the pleasant feelings} \\ \text{dislike} \text{---} \text{don't} \dots \text{more irriteusive} \\ \text{know} \text{---} \text{more irritating} \end{array} \right.$

pair 6 $\left\{ \begin{array}{l} \text{dislike} \text{---} \text{know} \dots \text{more irritating} \\ \text{like} \text{---} \text{don't} \dots \text{the pleasant feelings} \\ \text{know} \text{---} \text{more intensive} \end{array} \right.$

3) これらのことから、曲に対する認知の有無に特に関係なく、曲に対する好嫌感と音楽感情の間に密接な関係があり、快の感情群にその影響が現われるといえる。興奮・緊張の感情群では「いらいらする—ゆったりする」の感情に差異がみられた。

4) pair 3 と pair 4 において、何か特色のある傾向がみられはしないかと期待したが、無理のようであった。pair 3 でみられた傾向は、曲を知らない者の方がより印象強く快的な感じがしたのが現われたものではないかと思われる。しかしデータ不足で正確なことは言えない。

結 論

1) 曲を知っている者と知らない者との間では、興奮・緊張の感情群に音楽感情の差異が生じ、曲を知っている者の方により強い感情が生じることがわかった。

2) 曲を聞いていて快よい気持ちになる者は曲に対して好意を持ち、不快な気持ちになる者は曲に対して嫌意を持つのは当然であるが、その両者の感情の差異は著しいものであった。

3) 曲を知っている者と知らない者とは、曲に対して同じく好意(あるいは嫌意)を持つ場合、生じてくる音楽感情に何か差異があるのではないかと期待したが、データ不足のため十分な結果は得られなかった。ただ、好一知の者が他のグループの者と比較して、より強く快的な感情を示したのが特色としてみられた。

— 1972. 11. 15 —

参 考 文 献

1. Francès, P. Recherches èlectropoly-graphiques sur la perception de la musique. L'année psychol., 1956. 56. 373-396.
2. 古矢千雪 音楽感情について—SD法による分析 1967. 第24回中四国心理学会論集
3. 古矢千雪 SD法による音楽感情の分析 1968. 第32回日心大会論集
4. Grundluch, R.H. Factors de termining the characteristics of music phrases. Amer. J. Psychol., 1935. 47. 624-643.
5. Henkin, R.I. A reevaluation of a factorial study of the components of music. J. Psychol., 1957. a. 43. 301-306
6. Henkin, R.I. The prediction of behavior responce patterns to music. J. Psychol., 1957. b. 44. 111-127.
7. Hevner, K. The affective value of the elements of expression in music. Amer. J. Psychol., 1936. 48. 246-268.
8. Hevner, K. The affective value of pitch and tempo in music. Amer. J. Psychol., 1937. 49. 621-630.
9. Sopchak, A.L. Individual differences in responces to different types of music, in relation to sex, mood, and other variables. Psychol. Monog., 1955. No. 396.
10. Zimny, G.H. & Weidenfeller, E.W. Effects of music upon GSR of children. Child Developm., 1962. 33. 891-896.

ABSTRACT

This study is to examine the effect of the differences of individuals upon the musical feelings. The differences of individuals: one's likes and dislikes upon a music, and, know and don't know a music.

Method

Subjects. 60 students from Univ. of Music and 60 junior college students were used as Ss.

Experimental stimuli (musics). A. Spring Song...Mendelssohn
B. Golliwog's Cake Walk...Debussy
C. Military Polonaise...Chopin
D. Moon Light Sonate(3d.)...Beethoven.
E. Hungarian Rhapsody Nr.2...Liszt

Feeling scales. When I listen to this music, I feel or want to.....

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. joyful—sorrowful | 9. exciting—calm |
| 2. relieved—anxious | 10. tense—relax |
| 3. pleasant—unpleasant | 11. irritating—easy |
| 4. light—heavy | 12. make a noise—be quietly |
| 5. cheerful—melancholy | 13. awake—sleepy |
| 6. warm—cold | 14. powerful—weak |
| 7. refreshed—fatigued | 15. remember the past— |
| 8. wishful—hopeless | think of the future |

Questions. Do you like this music ? (like — ? — dislike)

Do you know this music ? (Yes. — No.)

Procedure. The subjects were instructed to listen to the stimulus music, estimate their feelings with each 15 scales (7 point rating), and finally, answer two questions.

Results.

The data, analyzed by t—test (Table 5.7), produced the following findings.

- 1) In the case of like—group vs. dislike—group, there were more significant differences at the .05 level in pleasant—feelings.
- 2) In the case of know—group vs. don't know—group, on the contrary, there were more significant differences at the .05 level in exciting—tense—feelings. These two results were showed in contrast.

Subjects were again classified in new groups. The differences between two means of ratings were analyzed by t—test in order to compare the two groups each other. Results were showed in IV.2. in the text.

It was apparant that the musical feelings had little relation to the knowledge of the music, but especially relation to one's likes and dislikes.

In addition, subjects who like and don't know the music feel more pleasant than others.